

令和6年度 第2回三木市学校給食審議会 議事録

1 開催日時 令和7年2月4日(火) 19時～20時15分

2 開催場所 三木市立教育センター 4階中研修室

3 出席者

会長	水野	千恵
副会長	河原	正則
委員	松谷	真利
委員	中西	千津江
委員	大塚	康生
委員	西耒路	雅恵
委員	高橋	美野

(事務局)

教育長	大北	由美
教育総務部 部長	森田	真規
教育施設課 課長	荒田	知宏
教育施設課 課長補佐	谷田	麗奈
教育施設課 給食係主査	埴田	邦美

4 傍聴者の人数 0人

5 議決事項

答申書(案)について

三木市の学校給食に関する課題について

(1) 米飯回数の見直しについて

(2) 市内産野菜の使用促進について

(3) 農薬や化学肥料等をできるだけ使わない食材の選定について

6 答申

学校給食の実施に関する重要な事項について（一部）

7 報告

学校給食の現状について

8 主な発言の要旨

（委員長）

前回の審議会でご審議いただきました学校給食に関する課題について、審議会でご提案をいただいた内容を僭越ながら私と事務局で答申案を作成しました。まず、答申に至る経緯として、2ページ目から説明させていただきます。

学校給食の実施に関する重要な事項について、保護者が給食にどのようなイメージを持っているのか、給食に対して望んでいることを把握するために審議会、令和5年11月にアンケート調査を実施しました。その他にも農業振興課から三木市の農業についてお話を聞き、現状を把握するとともに検討の参考としました。

一つ目、米飯回数の見直しについてです。アンケート結果を見ますと、主食の回数について今のままがよいという回答が保護者は66%、児童生徒は53%とご飯やパンの回数を増やすより現状の回数でも満足していることが分かりました。特に三木市では主食の米は全量市内産を使用しており、パンの小麦粉は、今年度より、輸入品から兵庫県産に変更しています。夏場はパンが食べにくいけれど、県産小麦粉になってからしっとりとして美味しくなったとの意見もあり、また栄養教諭から献立の幅を広げるためにも週に1、2回はパンを主食とすることで献立の幅が広がるというような意見がありました。

そして二つ目に市内産野菜の使用促進についてです。アンケート結果を見ますと、保護者は国産・兵庫県産・市内産の食材を活用することを望んでいることが分かりました。市内産野菜を実際に使用していることを知っているのは、保護者は75%、児童生徒は79%であったことから、さらにもう少し周知が必要と考えます。市内産野菜の使用率は下の表にありますように、少しずつ増えています。生産団体と毎年、調整会議を開催して品目数を徐々に増加していったことにより、下表のとおり徐々に使用量も増加しています。これからも生産団

体と調整し少しずつ品目や量を増加させていくことが地産地消の推進に繋がります。令和５年度で使用量が125.3トンで、うち38.2トンが市内産となり、市内産の使用率が30.5%に、平成30年度に市内産の使用率が20.9%だったので、9.1%増えています。

そして三つ目の大きな取り組みとして、農薬や化学肥料等をできるだけ使わない食材の選定について、保護者アンケートでは有機農産物の使用を望む意見があり、国も「みどりの食料システム戦略」や「SDGs」の中で、有機栽培は持続可能な農業の促進として期待されています。アンケート結果を見ると、「給食費が上がらなければ取り入れてほしい」が46%と最も多く、「給食費が上がっても取り入れてほしい」が16%となり、有機農産物の活用を望む意見が見受けられました。また、いくつかの自治体でも有機農産物の食材を一部導入している状況や市内でも有機JAS認定を受けた農場があることを確認しました。今年度は県の補助金を活用してレタスとキャベツの2品の有機農産物を給食に使用できるまで進めることができました。

給食で活用することにより、児童生徒や保護者が有機栽培について理解を深め、環境教育を促進し、三木市の農業の強みとなるためにも継続することができるよう市全体で検討することが必要と考えます。

経緯は以上で、答申内容の説明をします。

1、米飯回数の見直しについて、現在の米飯給食の実施回数は週当たり3.5回、パン給食の回数は1.5回となっています。今年度からパンの小麦粉を県産に変更し、地産地消の促進ができていることや、日本型食生活のよさを園児児童生徒に伝えられるよう、主食は米飯を基本としつつも、週に1、2回はパンを取り入れることが献立の多様化に繋がることから、現状の回数が望ましいと考えます。

2、市内産野菜の使用促進について、学校給食において地場産物を活用することは、児童生徒が地域の食文化や伝統に対する理解を深め、食への関心と感謝の心を育むことに繋がります。市内産野菜の使用率は令和５年度が重量ベースで30%と徐々に増加してきています。今後も三木市産の地場産物への理解と感謝の心を養い、郷土に愛着が持てるよう生産団体と調整し、可能な限り少しずつ種類や量が増加するよう努力し続けることが必要です。さらに、保護者にも給食で地場産物を使用していることを分かりやすく周知し、地産地消の意識

を高めていくことが必要と考えます。

3、農薬や化学肥料等できるだけ使わない食材の選定について、環境負荷の少ない農業の価値への理解を深めるため、第三者機関が認めた有機農産物を学校給食に活用することは、生きた教材になると考えます。ただし、有機農産物はまだまだ生産量に限りがあり、価格も高いことから全てを有機農産物にすることは困難であることから、まずは有機農産物の活用について1品ずつ取り入れ、市の関係部局全体で有機農産物の活用について検討していくことが必要と考えます。

以上を三つの課題について答申案としたいと考えています。この内容で答申してよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(委員長)

ありがとうございます。続きまして、答申に入ります。

先ほど議決をいただきました学校給食に関する課題について、当審議会から教育委員会大北教育長に答申いたします。

(教育長)

ありがとうございます。答申をいただいた方針に基づきまして、これからも子どもたちのために美味しい、そして安全な学校給食を提供してまいりたいと思います。ありがとうございました。

(委員長)

よろしく、お願いいたします。令和5年度からにわたり、進めてまいりましたことがこのような答申に至り、そして三木市の学校給食が少しずつ良くなっており、本当に良かったと思います。ありがとうございます。

それでは議事にうつります。今年度の学校給食の実施状況の報告を事務局より説明をお願いいたします。

～事務局より「学校給食の現状」により説明～

テレビ放映「ひょうご発信！教えてひょうご」

別所小学校で有機野菜を使用した給食や生産者による出前授業の様子を視聴

(委員長)

事務局からのご説明について、質問等がありましたらお願いいたします。

(委員)

１ページ目の地産地消ということで、パンの小麦粉を今年度より県産小麦粉に変えたということで、パンはどこで焼かれていましたか。

(事務局)

松山製パンです。

(委員)

松山製パンで製造する他のパンは県内産の小麦粉ではないと思うのですが、どこまで分けているのかという単純な疑問です。アレルギーでも同じ釜を使っているので少量は混じるということはあると思います。それと同じように、他で使用する小麦粉も混じることもありますか。

(事務局)

他に市販のパンや神戸市のご飯やパンも製造していますが、きちんと分けて混ざらないようにしているという回答をいただいています。

(委員長)

兵庫県産の小麦粉に変えたことによって子どもたちが美味しくなったというような意見が出たことは良かったです。

当初は、有機農産物を学校給食にすぐ取り入れることは難しいという話もあった中で、年度内にレタスとキャベツの２品目を取り入れ、献立も工夫いただき、新たな試みをされたので良かったと思います。出前授業ももっと希望者が増えるように、別所小学校の取材のテレビをご覧になり、他の小学校でも授業ができればいいと思います。食材の価格上昇とか、給食費について皆さん何かご質問等ご意見いかがですか。

(委員)

昨年に給食費を改定しているので、保護者はまた上げるのかと思うし、一方で無償にならないのかと言われる方もいます。改定してもまた上がる可能性があり、ずっと改定をしなければいけない。例えば、給食費を中学校で6,000円、小学校は5,000円にして、その年に上がった分だけを徴収するのはどうでしょう。また、物価高騰分の11ヶ月分を一度に3月にもらってしまうのはどうですか。去年は1万円だけど、今年は上がらなかったの5,000円

というのは、納得できるのではないのでしょうか。

例えば、令和7年そしてまた令和8年も上げてたら令和9年、また上がったから令和10年も、ずっと改定していかないといけないのですよね。確かに一気に1万円も値上げすると保護者が、怒ってこられるかもしれませんが、その年に値上がりした分だけを徴収したほうが良い。

(委員長)

国からの交付金等が安定的に得られるような働きかけも必要ですね。

(事務局)

無償化につきましては、要望等働きかけはしてはいます。想定外の物価高騰に対して、どのような手法がいいのか、教育委員会として考えていかなければなりません。今後、検討していきたいと考えています。

(委員)

米が不足すると、価格はまた上がりますよね。たまに買い物へ一緒に行っていますが、野菜の価格が恐ろしく高いです。給食は大丈夫かなと思うことがあります。

(委員)

給食費を無償化して税金で賄うとなれば、三木市はいくら必要ですか。

(事務局)

約3億円が必要です。

(委員)

給食費を無償化にしている市町村がありますが、一度、無償にすれば辞められないので、どんどん給食費が上がれば、大変なことになりますよ。予算の上限は決まっているわけで、食材費が増えれば、どこかで削らないといけないので、結局は、市で何かの予算が必ず減らされます。

(委員長)

三木市は市内産野菜を使用した差額を補填していますが、その補填額も不足分の金額に含まれていますか。

(事務局)

含んでいません。市内産野菜の差額を補填した後に不足する金額です。

(委員長)

市の支援はいただいても、まだ3,000万円の不足があるのということて

すね。なかなか大きな金額ですね。給食回数が減るのは、避けたいですね。

保護者の方にとって、給食はきちんと食べさせていただき、食育の生きた教材としても、すごくありがたいことなのですが、この物価高で、値上げは響きますね。以前であれば、値段が高くなるだけだったが、出回らなくなる食材が少しずつ増えている気がします。例えば、お鍋の季節なのに菊菜等の葉物が今年は、少量しかお店になかったです。

アンケートでは、パンの量が多く残す人が多いので、もう少しパンのサイズを小さめにするのも一つの考え方で、栄養価とのバランスもあるのですが、内容を充実しつつ給食費の金額が抑えられたらいいと思います。

毎年、児童生徒へのアンケートを実施されていて、令和5年度は保護者の方にアンケートを実施し、保護者の方が給食に興味があると感じることができて良かったと思います。給食について、学校や教育委員会の方で何か意見を聞くことはありますか。

(事務局)

教育委員会には、無償化等の給食費関係の意見が多いです。

(委員)

学校では、基本的に、給食はありがたい楽しみにしているという言葉があります。

(委員長)

保護者の方に関心を持っていただけるのは、すごいことだと思います。給食だよりや献立表は、紙ベースだけじゃなくてウェブ上でも見られますか。

(事務局)

はい、すぐーるでの配信やホームページで見られます。

(委員)

すぐーるのことで、もちろん見られる媒体が増えるのは良いのですが、紙がなくなると子どもと朝に今日の献立は何で、これが嫌いという会話が少し減ると思うので、紙を減らなさいといけないかもしれませんが、紙の献立表は残してほしいです。

(事務局)

給食の献立は紙で配布しますので、冷蔵庫等に貼って一緒に見ていただきたいです。

(委員長)

献立名を見るだけではなく、何が入っているのか興味を持ってほしいです。今は、調理経験は少ないし、伝統食等を食べる経験もどんどん少なくなっているのです、学校給食で色々な取り組みされていることが、食文化を受け継ぐことにも繋がっていくと思います。

国の給食費の無償化ですが、先ほどもお話しましたが、具体的な政策が見えていないので審議会としても国の動きや、社会情勢を注視しながら、三木市の学校給食が円滑に運営でき、子どもたちに魅力ある給食を提供していただけるように、委員の皆様と今後も審議を進めてまいりたいと思います。

給食審議会の委員の任期は2年で、委員の皆様は任期満了となり、今日が最後となります。2年間、本当にありがとうございました。最後に何か給食について一言ずつお話いただけたらと思います。

(委員)

先ほどお金のことも言いましたが、中学校は310円で食べさせていただいております。今日も外でお昼を食べたら1,000円位を払うのは普通です。健康のことも考えてもらいながら、これだけ安く食べさせていただけるのは、ありがたいです。今後も子どもたちのことを考えて、この会議が良いものになればと思います。ありがとうございました。

(委員)

説明がありました全国学校給食週間で「大阪・関西万博開催 みんなで関西を盛り上げよう！」という企画の時に、私も教室を回り、子どもたちに話を聞くと、大阪のたこ焼きやきつねうどん等はインパクトがあり、また、低学年の児童も奈良県の竜田揚げやにゅうめん等についての感想を言っていました。毎年、テーマを変えて、給食を考える機会があり、子どもたちも給食を意識するでしょうし、今年の給食週間も良かったと感謝しています。

(委員)

この委員をさせていただくことで、より一層給食について深く考えるいい機会ができました。また皆さんから色々な意見を参考にしながら、今後も子どもたちにとって魅力的な給食作りをしていきたいと思っています。ありがとうございました。

(委員)

市内産野菜や無農薬のものとか、その方が良いと思いながらも、足踏みをしていたところがありましたけれども、審議することにより、外部の方からもご意見をいただくことによって、少しずつ動き出し、動き出したら加速していくということを実感しました。これからも子どもたちのためにより良いもの使っていきたいと思いました。どうもありがとうございました。

(委員)

審議会に参加し、栄養教諭の先生方からメニューを色々と考え、私には考えられないような苦労があると認識しました。自分の子どももこの4月から高校生になるので、給食は卒業になるのですが、給食を当たり前と思わずに、食べている向こう側には、数多くの人の苦労があることを伝える機会を与えていただき感謝しています。本当にありがとうございました。

(委員)

給食がどうやって考えられているのか、保護者からは見えないところを審議会に参加させていただいて、とても勉強になりました。給食は安く、栄養を考えて提供いただけることも感謝したいと思いました。給食は、教室でみんなで食べることも美味しさのうちの一つだと思います。そういう機会はコロナの時にはできませんでしたが、楽しく食べることも食育の一つだと思います。ありがとうございました。

(事務局)

答申につきまして、皆様に令和5・6年度と慎重に審議を重ねていただき、ありがとうございました。今後につきましても、答申をいただいた市内産の使用促進また有機農産物の活用については、これで終わりということではございませんので、継続して検討してまいりたいと考えております。取材時にも、子どもたちは、いい笑顔で給食時間に笑う姿も見られましたので、今後も笑顔が一つでも多く、今日の給食は美味しかったと喜んでもらえるような良い給食を目指します。2年間本当にありがとうございました。

次回、新たに来年度4月開催に向けて審議会の準備を進めていきたいと考えております。

(委員長)

本当に色々なことを考え、そして一歩進めた審議会だったと思います。私も

いろいろと勉強させていただき、ありがとうございました。以上で本日の議事は終了しました。それでは教育長様からご挨拶をお願いいたします。

(教育長)

委員の皆様におかれましては、令和5年4月24日から7回にわたってご審議を重ねていただきました。この学校給食審議会は三木市が給食を始めてから初めての審議会ですが、まず設立できたことは事務局においても有意義なことですし、保護者の方々のご意見を伺うということは本当に大切だと思いました。子どもたちからはアンケートを毎年とりますが、保護者の皆様からアンケートとることは、今までしておりませんでしたので、ご意見を伺えたことも良かったと思います。これも委員の皆様からご意見をいただいて、私達も実行することができましたので、事務局としましてはこの2年間は充実した時間が持てました。

給食費につきまして、三木市は国の臨時交付金の一部分を保護者負担の軽減のために充てさせていただきましたので、給食費は改定しましたが、保護者様の徴収額は上がっていません。ただ、来年度は改定額で徴収させていただいても、まだ足りなくなってしまうので、また臨時交付金を活用することを、議会に上程しています。交付金をいただけたら給食費の高騰分として3,000万円以上を補填します。ただ、給食費が上がっていることには間違いなく、こんなことを何回するのかと、委員からご指摘がありました。また、無償化ということは、まだ三木市はそこまで考えが及んでいません。

実は、三木市は小中一貫校を建てますので、今日、亀岡市というところに視察に行つてまいりました。亀岡市もお米は地元で採れたもの、そして農薬が少ないものを提供されていると聞いてまいりました。野菜も米もオーガニックにするとおのずと価格が上がります。方針は市が決めているので、市が負担されているのですかと尋ねたら、いや保護者負担ですと回答されました。

委員の方々からご指摘いただいたなるべく化学肥料等を使わない野菜の提供はSDGs、環境に優しいという観点から、これからも続けてまいりたいと思っております。今年度は、県の補助金を活用し提供しました。良いものを子どもたちに食べてもらいたい。でも価格は抑えたい。このジレンマがあるのですけれども、国・県の政策を注視しながら、子どもたちが美味しい給食を安全に食べていただけるよう、教育委員会は努力してまいりたいと思います。そのために

は、この審議会が本当に支えになりますので、皆さんからご意見をいただくと、教育委員会も自信を持って前へ進むことができます。何回も言いますがとても良い審議会を立ち上げることができ、私はとても喜んでおります。任期は終わりますが、これからも給食を注視していただいて、続けてご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。2年間本当にありがとうございました。

(委員長)

それでは閉会にあたりまして、副会長がご挨拶されます。

(副会長)

2年間、委員をさせていただいて、何度も意見を言わせていただきました。来年度、新しい委員の方から活発な意見を言っていただけたらと思います。本当にどうもありがとうございました。